

「大学での研究成果を活かせる仕事を求めて、就職活動を行っていました。電力会社や水道事業者など、ダムに関われそうな職場を探していたとき、水資源機構に巡り会いました。先輩職員の方から色々とお話を伺う機会もあり、ここで働いてみたいと思いました。」

実際に入社して、思い通りの仕事が出来ているのか聞いてみた。

「学校で学んだ機械工学の基礎的な知識は、機械設備の点検や整備工事の計画を立てる時などに役立っています。ただ、機械職として扱う設備は、ダムのゲートの他にもポンプやバルブなど多岐にわたっています。研究してきたことが直接、役に立つことはなかなかありませんが、その分幅広い勉強が出来ていると思います。」

はっきり言って楽しい

入社して3箇所目の職場となる牧尾管理所では、初めてダムの管理を担当しているが、これまで在籍した事務所とは勝手が違う。「機械職として、ゲート等のダム管理用機械設備の維持管理は当然ですが、その他にも、電気設備の点検や水質調査、施設巡視などの業務も行います。これまで在籍した事務所では、人数が多かったことから自分が担当する機械の仕事だけを行っていましたが、牧尾管理所は少人数であることから、専門外のこともやる必要があります。また、ここには、機械職が自分一人しかいません。業務の進め方や手続きなど、同じ機械職の立場でチェックしてくれる方が近くにいないので、何をやるにも今まで以上に緊張感があります。」

佐藤は続ける。

「でも、辛いわけではありません。電気設備の点検や施設の巡視のときに注意する点など、よく分からないこともたくさんありますが、それぞれ、専門の担当者である先輩方が教えてくれます。逆に、機械設備のこ

とを他の担当者に教えることもあり、毎日、新しい発見や経験の連続です。はっきり言って楽しいですね。」

まだまだ勉強中

様々な経験を積んでいる最中の佐藤。でも、やはり気になるのは、自身の専門であるゲートのことだ。

「ゲートについては、日頃から万全の状態を維持していますが、実際にゲート操作を行う時は、いつもヒヤヒヤしています。きちんと動作するのを確認するまでは、ドキドキですね。最終的に操作が無事に終わると、ホッとします。」



「牧尾ダムのゲートは、夏場は水があるため目視での点検しかできません。そのため、実際にゲート動かしての点検は水位が下がる冬場に行っています。今は、このゲートの塗り替え塗装を来年度から実施する計画を立てています。塗装工事も水位が下がる冬場にしか行うことが出来ませんが、冬場はマイナス10度以下にもなります。厳しい条件下での工事になりますが、新しい技術や材料の研究なども行い、確実に実施していきたいと思っています。」

牧尾管理所で、専門分野であるゲートを始めとする機械設備の維持管理を一人で担うのみならず、専門外の業務にも積極的に取り組む佐藤。取材中のこんな一言が、印象に残った。

「まだまだ覚えることがたくさんあります。毎日が全力で、振り返っている余裕はありません！」



事務所に赴任して最初に所長から受けたアドバイスは、「地元のことを知れ！」

このアドバイスを実践するため、山菜やキノコの勉強を始めたほか、10月には地元のマラソン大会にも参加予定とのこと。

